

株式会社 隆和会 ルーツケア東成

大阪府大阪市東成区大今里 3-13-6



ケガの治療やケア、訪問介護事業で アスリートの未来を支えたい——

アスリートのサポート・ケア事業と、障がい者向けの訪問介護をメインにした福祉事業を展開する『隆和会』。同社の麻生社長は、柔道整復師・スポーツトレーナーとして接骨院を営んでいたが、2019年から障がい者福祉事業をスタートした。これまで培った経験も活かしながら確かな歩みを進めている。竹原慎二氏が社長の熱き想いに迫った。



代表取締役・柔道整復師・スポーツトレーナー

麻生 隆弘

——まずは麻生社長の歩みから。

大阪の出身です。かつてモトクロスの選手だったのですが、危険と隣り合わせのスポーツゆえに怪我に悩まされていました。その治療を通して興味を持った柔道整復師とスポーツトレーナーの資格を取得し、この場所で接骨院をスタートしました。特にタイムリミットのある中で、わずかな期間に懸けているアスリートたちの「リアルなケガ」を治したいという思いからはじまり、ラグビー部のある私立高校や大学とのご縁により、ラグビー選手のサポートとケアを行うようになりました。

——ほう。では社長もラグビーの経験者でいらして？

いえ。選手としての経験はありません。ただ10代のころに建築関係の仕事をしていて、その時の部下がラグビー選手だったんです。それが縁でラグビーに興味を持つようになったことから事業につながっていきしました。

——社長は実に多彩なキャリアをお持ちだ。現在は訪問介護事業も手掛けておられるとか。どんなきっかけで始められて？

ラグビーはコンタクトスポーツですから、頸椎損傷などで障がいを負ってしまう選手もいるんです。私が指導を行ってきた中でもそういった選手がいました。柔道整復師として、トレーナーとして彼らを懸命に支えてきたつもりでしたが、障がいはどうすることもできない——いかに自分が無力かということを実感しつづけたような思いでした。また、選手のサポートの一環として選手のお母様への食育指導なども行うなど、家族ぐるみのお付き合いですから、ご家族のつらさもよくわかる。色々な想い

が重なって、自分の仕事に誇りが持てなくなり、自信も失った時があったんです。そんな時、障がい者向けの訪問介護なら障がいを負った選手たちに寄り添い続けることができるのではないかと思い、この事業所をオープンするに至りました。

——無力さ、悔しさといった想いを訪問介護事業というかたちで昇華された。

介護事業参入に伴いアスリートのサポートやケアを中断してから1年ほどが経ちます。今でもトップリーグに行った教え子から試合に招待してもらうことがあり、応援に行くとかたくさんの方から「戻ってきてほしい」というお声をいただくんです。本当にありがたいですし、離れてみて初めて分かることもありました。ゆくゆくは、もう一度現役選手のサポートができればと考えています。そのために、まずは介護事業で確かな事業基盤を築いていきたいですね。

——今後のご活躍がますます楽しみです。よ！ 私応援しています。

何より利用者さんの立場に立って考えることを大切に、職員たちと皆で笑える環境をつくり、私も含めて皆で一緒に成長していければと思っています。



ゲストインタビュー
竹原 慎二
（元WBA世界ミドル級チャンピオン）

「障がいを負ったアスリートの未来を想い、訪問介護の事業所を立ち上げられた麻生社長。選手たちのケアを行う中で、信頼関係を築いてくれたからこそその決断だったのですね。これからも頑張ってください！」